

# 11月「Schicksalstag」 アントニア・シュルト

1.

国際交流員の業務は幅広く、学校訪問や保育園訪問などから市役所の翻訳業務やイベント企画までです。私の理解では国際交流員は、ドイツについて書いたり発表したりすることを通して、海外の一部であるドイツを少しでも近く感じてもらえるような仕事でもあります。ドイツだと、ビールやソーセージ、またはバッハという作曲家、ドイツのクリスマスなどの様々な連想があると思いますが、国を全体的に見てみれば、文化や食事だけでなく、ドイツの歴史を部分的に話題にすべきだと思いますので、今回、ドイツで「運命の日」とも呼ばれている11月9日をテーマに書いてみました。ドイツでは11月9日には歴史的な事件がよく起こっている日という背景があります。

# 11月「Schicksalstag」 アントニア・シュルト

2.

例えば：

1918年 ドイツ革命

1923年 ミュンヘン 一揆

1938年 クリスタル・ナハト (“Kristallnacht” / “Reichskristallnacht”)

1989年 ベルリンの壁崩壊

3. それぞれがドイツの歴史の中で重要な事件ですが、今回は1938年に起こった「クリスタル・ナハト」について書いてみたいと思います。日本語に直訳したら、「水晶の夜」 (“Kristallnacht”) という言い方もしています。その日に何が起こったかというと、ナチス政権下で反ユダヤ暴動が起きました。

# 11月「Schicksalstag」 アントニア・シュルト

4.

歴史家によると、この事件が国家社会党の反ユダヤ人政策における最も重要な転換点の一つとみなされています。この暴動の後、反ユダヤ人主義がSS（「Schutzstaffel」略号：SS、「親衛隊」）の中でさらに進展していったという事実もあり、翌年にドイツの経済や社会生活の排斥を目的とする手段がより急進されることになりました。「水晶の夜」という名前は綺麗に聞こえますが、崩壊されたガラスが月明りに照らされて、水晶のようにみえていたということからきています。ドイツが第二次世界大戦に負け、各地で平和や人間の尊厳を侵したことを認め、「Vergangenheitsbewältigung」（過去の克服）という言葉が生まれたことに伴い、犠牲者人種集団のユダヤ人の感情を損なわないように、ニュートラルな「Reichspogromnacht」などを使うことになりました。というのも、今は「Kristallnacht」という言葉はドイツであまり使われていません。もし使ったら、“…” クォーテーション・マークが必ずつきます。欧米でクォーテーション・マークの意味が日本よりもっと広く使われています。皆さんもご存知の通り、“…”は誰かの言葉を引用するときによく使われますが、私の国ドイツなどの使い方には、風刺・皮肉・婉曲表現として使われることがあります。ここで使う“…”は差別的な表現であるということを知りながら使うという意味があります。皆さんは、どう思われますか？私は、言葉にはどれほどのパワーがあるか、ということを知りよく考えていますが、言葉さえ変われば私たちの意識が変えられるなんて少し甘い、というような気がします。